

# 決算説明会

( 2026年3月期 第2四半期)

2025年12月15日

株式会社TBK  
(証券コード: 7277)

## 説明内容

- I. 2026年3月期 第2四半期 実績
- II. 2026年3月期 通期見通し
- III. 第16次中期経営計画進捗

【登壇者】

代表取締役社長：尾方 馨  
経営戦略部長：篠崎 啓介

# I. 2026年3月期 第2四半期 実績

# (1) 連結損益計算書概況

単位：億円

(参考)

科目	2025年3月期 第2四半期		2026年3月期 第2四半期		増減	増減率	2024年3月期 第2四半期
売上高	268.0		258.5		▲9.5	▲3.5%	277.3
営業利益	0.6	0.2%	4.7	1.8%	4.1	659.8%	2.1
経常利益	▲2.1	▲0.8%	4.6	1.8%	6.7	-	3.5
当期利益	▲12.4	▲4.6%	2.7	1.1%	15.1	-	▲0.6
《為替レート》	2025年3月期 第2四半期		2026年3月期 第2四半期		変動率		2024年3月期 第2四半期
タイバーツ	4.27		4.47		4.7%		4.05
インドルピー	1.83		1.69		▲7.7%		1.71
香港ドル	19.49		19.04		▲2.3%		17.22
人民元	21.07		20.45		▲2.9%		19.46
U.S.ドル	152.36		148.41		▲2.6%		135.01

## (2) 地域別 売上高・営業利益

単位：億円

(参考)

	2025年3月期 第2四半期			2026年3月期 第2四半期			増減		2024年3月期 第2四半期			
	売上高	営業利益		売上高	営業利益		売上高	営業利益		売上高	営業利益	
日本	136.9	▲1.5	▲1.1%	153.5	1.4	0.9%	16.6	2.9		145.4	▲0.5	▲0.3%
アジア	84.0	3.4	4.0%	87.6	4.5	5.1%	3.6	1.1		93.4	5.2	5.6%
中国	16.6	▲0.5	▲3.0%	17.2	▲0.0	▲0.2%	0.6	0.5		17.4	▲0.0	▲0.1%
北米	30.3	▲0.5	▲1.7%	0.1	0.1		▲30.2	0.6		20.9	▲2.0	▲9.6%
調整		▲0.1			▲1.3			▲1.2			▲0.5	
計	268.0	0.6	0.2%	258.5	4.7	1.8%	▲9.5	4.1		277.3	2.1	0.8%

- ・日本 : 2024年問題による車両買い控えの反動で、普通トラックの需要は増加  
コスト上昇に対する販売価格への転嫁、内製化・経費等の圧縮を進め、収益力の向上を図った
- ・アジア : タイはローン審査における厳しさが継続しており、前年比売上増も、利益の伸長は限定的となった  
インドは北米からの生産移管による受注増加となつたが、売上高は横ばいも前年比損益は良化
- ・中国 : 景気低迷長期化の中、売上高と営業利益は微増、引き続き新規拡販活動を実施していく

### (3) 製品別 売上高

TBK

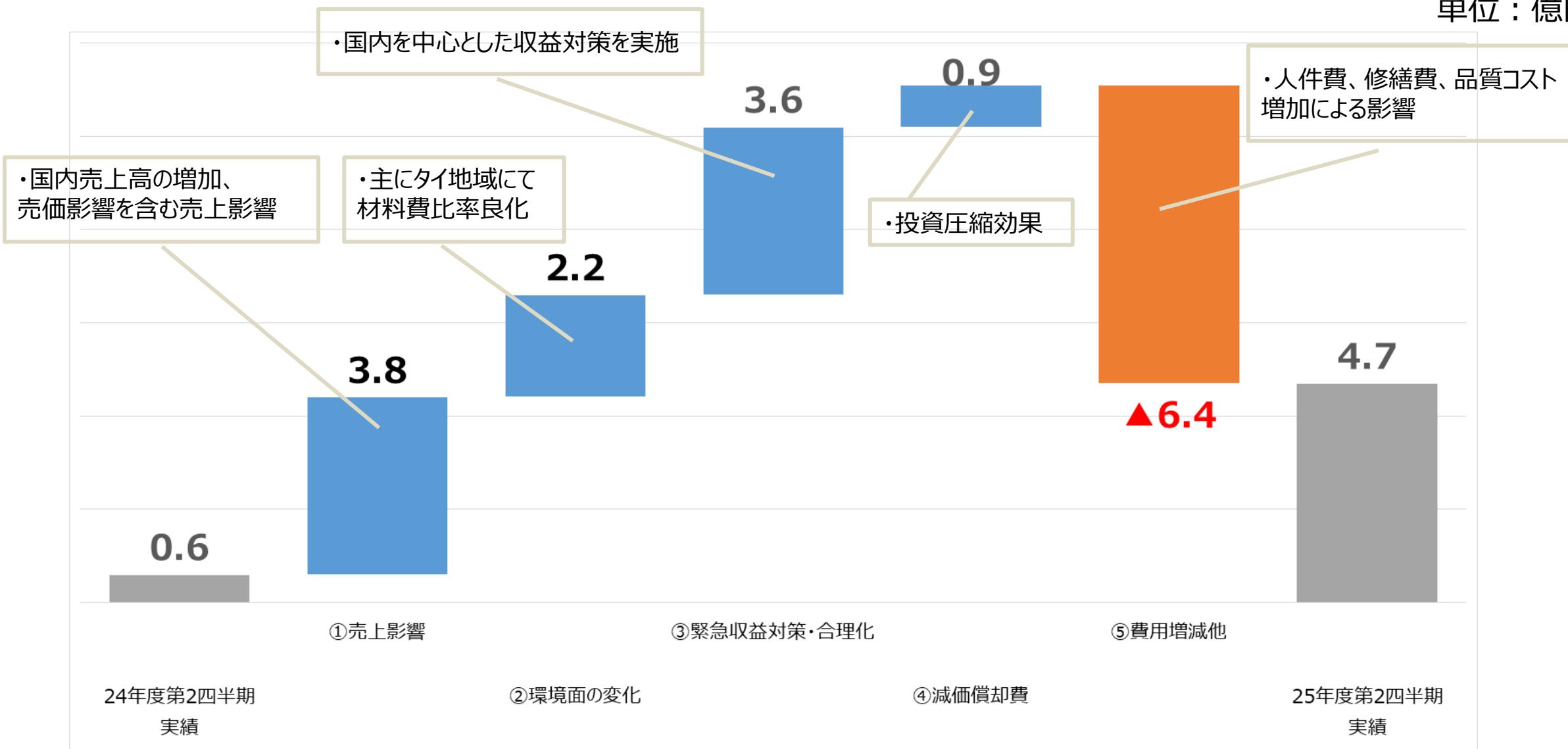
単位：億円

(参考)

	2025年3月期 第2四半期			2026年3月期 第2四半期			増減		2024年3月期 第2四半期		
	日本	アジア 中国 北米	日本	アジア 中国 北米	日本	アジア 中国 北米	日本	アジア 中国 北米	日本	アジア 中国 北米	日本
ブ レ ー キ	65.5	25.4	77.9	23.6	12.4	▲1.8	73.2	31.7			
ポ ン プ	50.8	72.0	54.3	35.8	3.5	▲36.2	50.2	61.0			
エンジン部品	7.0	30.9	6.7	41.9	▲0.3	11.0	7.1	34.7			
そ の 他	13.4	2.6	14.7	3.6	1.3	1.0	14.8	4.3			
小 計	136.9	131.1	153.6	104.9	16.7	▲26.2	145.4	131.9			
計	268.0			258.5			▲9.5			277.3	

## (4) 連結営業利益変動要因

単位：億円



# （5）連結四半期別売上高・営業利益推移

TBK

単位：億円

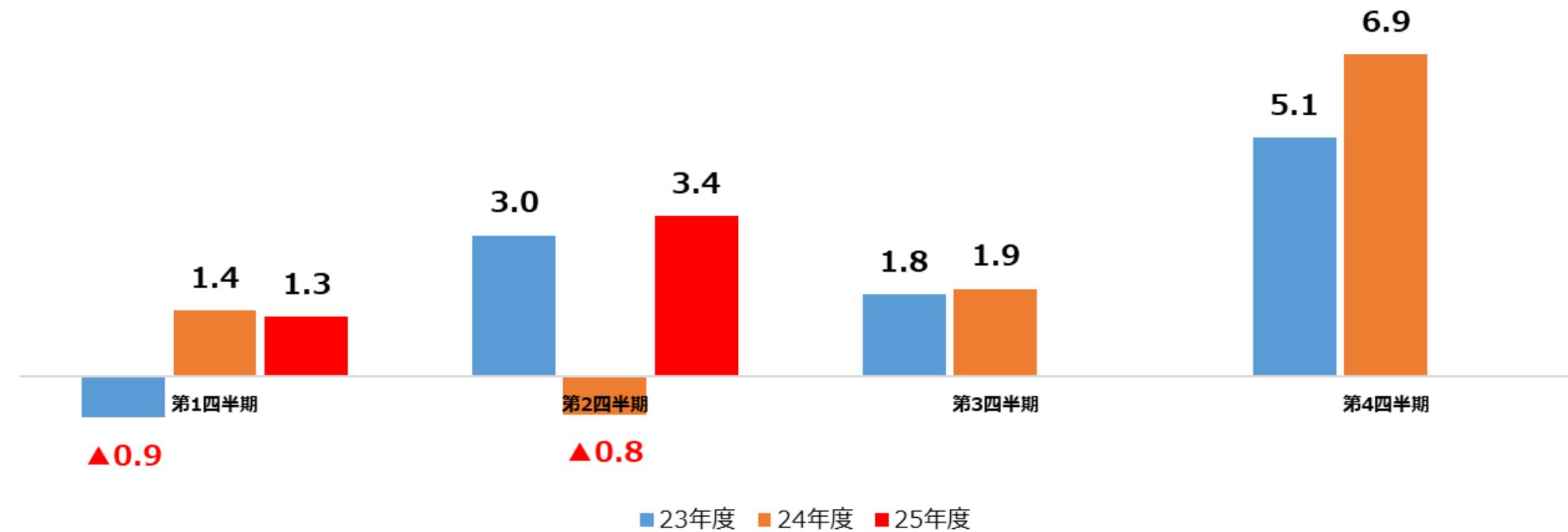
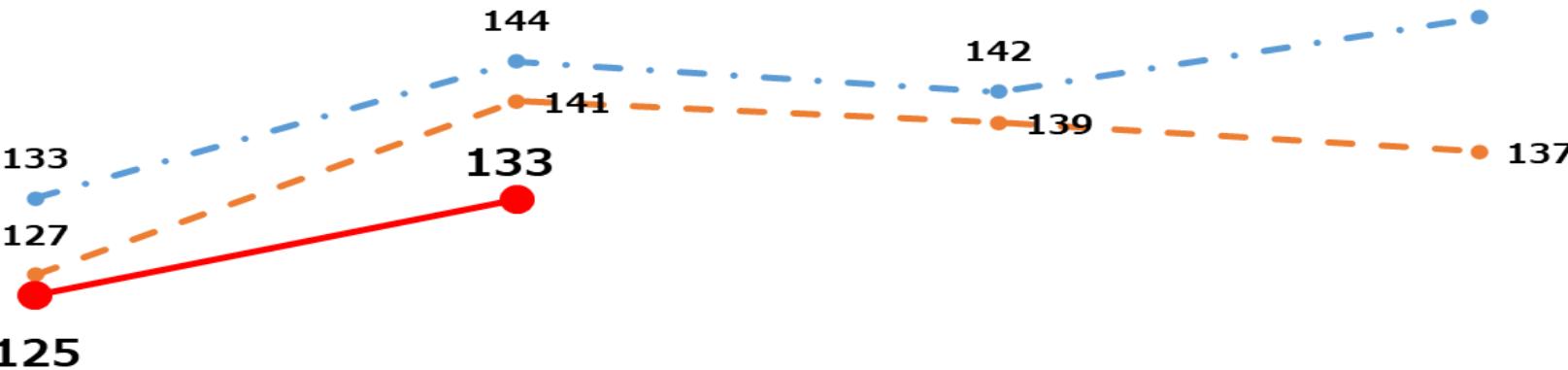
売上高

当期

前期

前々期

営業利益



# (6) 連結キャッシュフロー計算書概況

単位：億円

科目	2025年3月期 第2四半期		2026年3月期 第2四半期		増減
	C	F			
営業	C	F	19	19	0
投資	C	F	▲11	2	13
フリ -	・	C F	8	21	13
財務	C F	他	▲7	▲13	▲6
現預金	期末	残高	43	49	6

営業活動CF

税引前利益 +6  
減価償却費 +14

投資活動CF

設備他取得 ▲9  
固定資産売却収入 +8  
出資金売却収入 +3

財務活動CF

有利子負債 ▲12  
配当金 ▲1

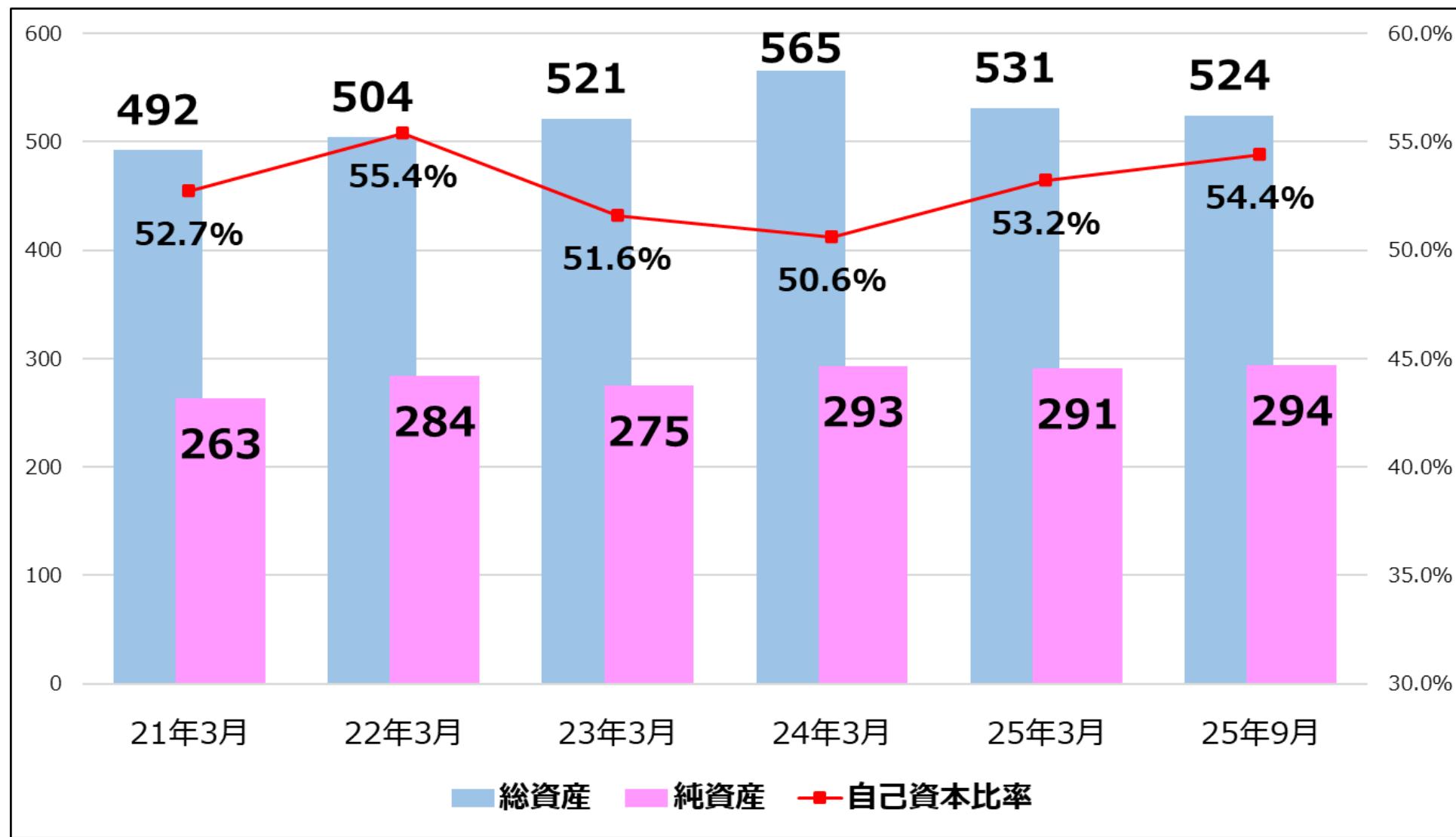
## (7) 連結貸借対照表概況

単位：億円

	前連結会計年度 (2025年3月)	当連結会計年度 (2025年9月)	増減	
流 動 資 産	264.0	268.0	4.0	現金及び預金 +8 棚卸資産 ▲3
固 定 資 産	267.2	256.7	▲10.5	建物及び構築物 ▲6 機械装置・運搬具 ▲3 出資金 ▲4
資産合計	<b>531.2</b>	<b>524.7</b>	<b>▲6.5</b>	
流 動 負 債	177.7	169.8	▲7.9	短期借入金 ▲11 流動負債その他 +4
固 定 負 債	62.4	60.3	▲2.1	長期借入金 ▲2
負債合計	240.1	230.1	▲10.0	利益剰余金 +1
株 主 資 本	217.4	219.0	1.6	有価証券評価差額金 ▲1
その他包括利益累計額	65.1	66.6	1.5	為替換算調整 +2
非 支 配 株 主 分	8.6	9.0	0.4	
純資産合計	291.1	294.6	3.5	
負債・純資産合計	<b>531.2</b>	<b>524.7</b>	<b>▲6.5</b>	

## (8) 総資産/純資産/自己資本比率推移

単位：億円



## II. 2026年3月期 通期見通し

# (1) 2026年3月期 連結業績予想

(期初予想を据え置き)

単位：億円

(参考)

科目	2025年3月期		2026年3月期(予想)		増減	増減率	2024年3月期	
売上高	544.2		520.0		▲24.2	▲4.4%	566.5	
営業利益	9.4	1.7%	11.0	2.1%	1.6	16.8%	9.0	1.6%
経常利益	3.1	0.6%	10.0	1.9%	6.9	223.5%	8.4	1.5%
当期利益	▲12.0	▲2.2%	6.0	1.2%	18.0	-	3.3	0.6%

	2025年3月期 配当実績	2026年3月期 配当予想
1株あたり 配当金	8円	8円
配当性向	-	38.0%
ROE	▲4.2%	2.1%

- 安定配当を基本方針として、配当性向40%以上を継続的に実施してまいります。
- ROEが一定水準を回復するまでの期間は、配当性向を流動的に運用してまいります。

## (2) 地域別 売上高・営業利益 業績予想

(期初予想を据え置き)

単位：億円

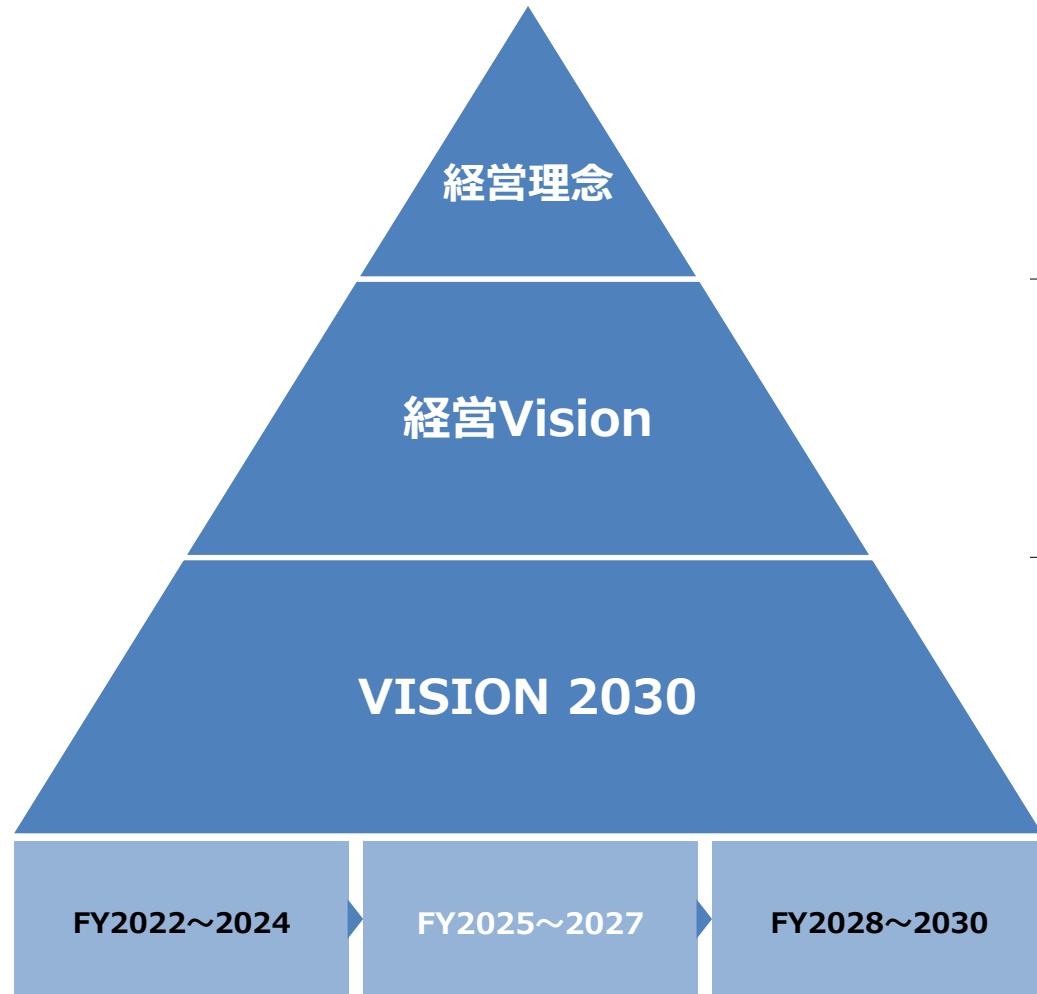
(参考)

	2025年3月期			2026年3月期(予想)			増減		2024年3月期		
	売上高	営業利益		売上高	営業利益		売上高	営業利益	売上高	営業利益	
日本	287.0	1.5	0.5%	300.0	2.5	0.8%	13.0	1.0	297.2	1.5	0.5%
アジア	180.1	9.4	5.2%	185.0	8.3	4.5%	4.9	▲1.1	192.4	10.0	5.2%
中国	33.4	▲1.0	▲3.0%	35.0	0.2	0.6%	1.6	1.2	35.1	▲0.6	▲1.7%
北米	43.4	0.1	0.2%	0.0	0.0		▲43.4	▲0.1	41.7	▲0.3	▲0.7%
調整		▲0.6								▲1.4	
計	544.1	9.4	1.7%	520.0	11.0	2.1%	▲24.1	1.6	566.5	9.0	1.6%

- ・日本 : 国内は、2024年問題による車両買い控えの反動で、普通トラックの需要は増加  
輸出は、アセアン向けに関しましては年内まで低調となる見込
- ・アジア : タイ国内向けは、引き続き市況厳しく需要減退の継続も、収益力の向上を図っていく  
インドは、前年並みの売上高を見込むも、原材料コストの上昇等が見込まれるが増益を目指していく
- ・中国 : 中国国内の景気低迷と需要停滞が継続も、新規拡販活動及び組織体制の最適化をしていく

### Ⅲ.第16次中期経営計画進捗

## 時代の変化に合った価値をスピーディーに創造する企業



### TBKの使命

「お客様に喜んで頂く商品をつくり、社会に貢献する。」

### TBKの目指す姿

「TBKグループは、社会にとって必要とされる企業であり続け、顧客満足と価値創造でアジアのリーディングカンパニーを目指す。」

### VISION2030

#### 2030年に目指す姿

「時代の変化に合った価値をスピーディーに創造する企業」

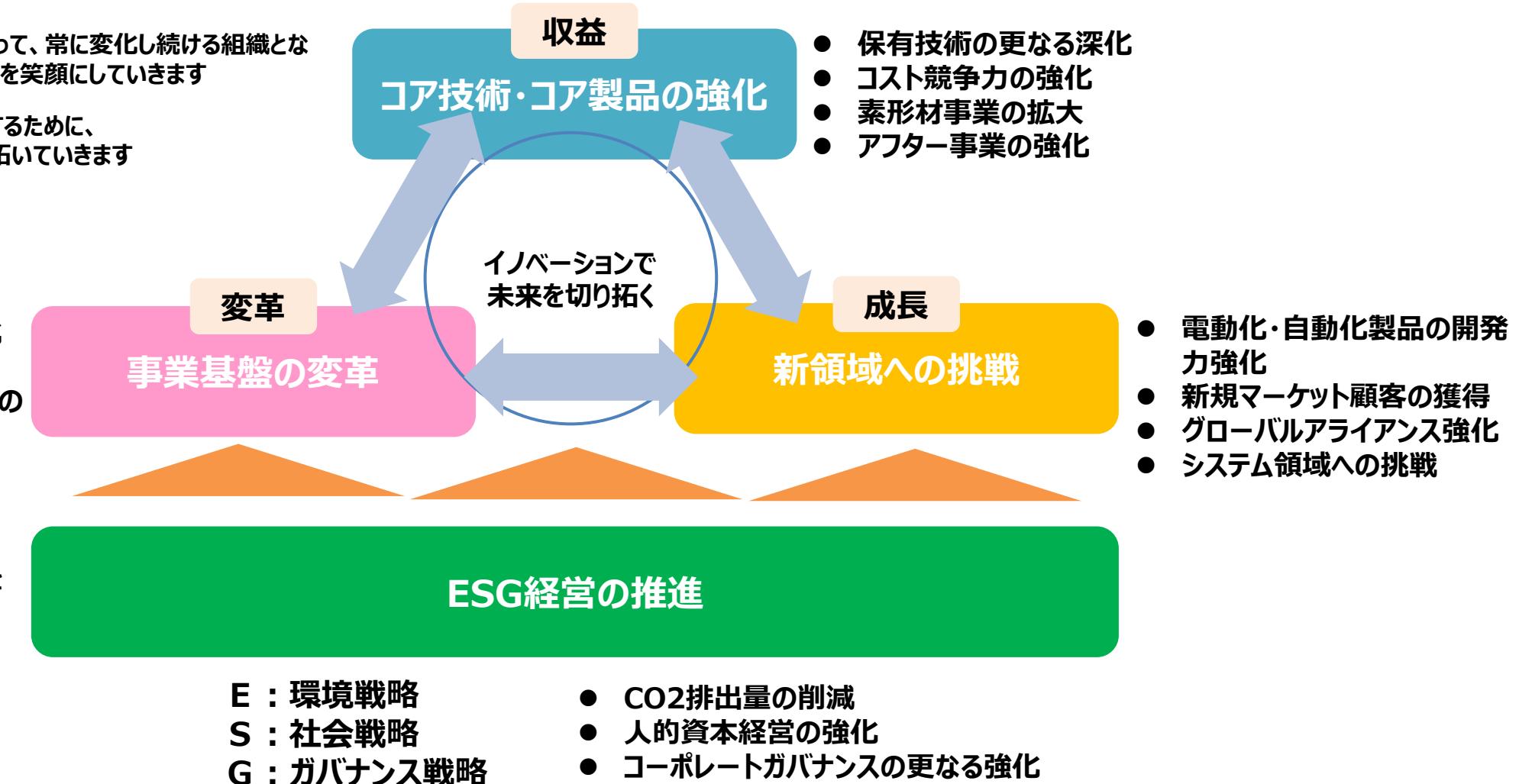
#### 2030年に向けた行動原則

「1. Do now 2. Do new 3. Run fast」

## We Are One TBK

- ・ 私たちは、グループ一丸となって、常に変化し続ける組織となり、企業価値を創造し、人々を笑顔にしています
- ・ みんなのありたいをカタチにするために、イノベーションで未来を切り拓いていきます

- ・ 鋳物事業の最適化と強化
- ・ 中国事業の再編
- ・ 変革を実行する組織体制の再構築



## 財務指標

評価指標	2027年度目標
営業利益率	3~5%
ROE	5%



## 非財務指標

ESG経営	マテリアリティ	評価指標	2027年度目標
環境 E	事業を通じた社会と環境への貢献	・CO <sub>2</sub> 排出総量	▲30% (2013年度比)
		・環境製品開発 (ブレーキダスト抑制)	開発完了
社会 S	製品品質・労働安全の維持・向上	・重大品質不具合件数 ・重篤災害発生件数	共にゼロ目標
	多様性のある人材の確保・活用	・グローバル人材の育成 ・女性管理職の育成	語学スキル等の向上 育成計画の達成
	働きがいのある職場づくり	・年次休暇取得率 ・健康経営推進	休暇取得率 80%以上 優良法人取組推進
ガバナンス G	コーポレートガバナンスの持続的強化	・知財戦略の確立及び実行	収益力に資する知財活動の実行
		・コンプライアンスの強化	法令遵守・企業倫理に関する教育の徹底

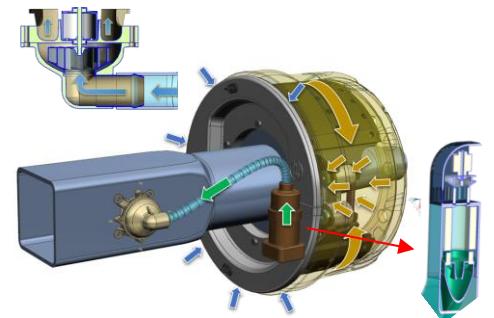
## 人とくるまのテクノロジー展2025へ出展



収益  
コア技術・コア製品の強化

成長  
新領域への挑戦

本展示会にて、環境保全に貢献する集塵装置付きブレーキ製品コンセプトを公開しました。軽量化により、CO<sub>2</sub>削減を達成し、持続可能な社会構築を推進してまいります。



Euro7に対応したブレーキ粉塵の集塵装置

## 製品技術展示会と試乗会開催



成長  
新領域への挑戦

本年度も主要自動車メーカー、商用車メーカー向けに「製品技術展示会」や「電動開発車の試乗会」を開催を実施いたしました。



NPS月例研究指導会

## 社内改善活動（NPS活動）



収益  
コア技術・コア製品の強化

NPSの基本思想である改善活動と人財育成を推進し、効率的かつ高品質な生産ラインの構築と企業体質の強化に取り組んでいます。

## 自動化設備の導入



収益

コア技術・コア製品の強化

タイ拠点であるTBKK(Thailand) Co.,Ltd.は、加工ライン・鋳造ラインに自動化設備を導入し、人員の最適化と品質の向上を実現しております。



タイ工場の自動化設備

## 大型アルミダイカスト設備の導入



収益

コア技術・コア製品の強化



成長

新領域への挑戦

タイ拠点であるTBKK(Thailand) Co.,Ltd.は、グループ最大級となる型締力1,650トンクラスの大型アルミダイカスト設備の導入を進めております（26年6月稼働開始予定）これにより、アルミ大型案件への対応力を備えていきます。



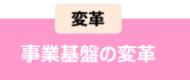
タイ工場導入中の1,650トン級ダイカストマシン

## 生産性向上の取り組み



収益

コア技術・コア製品の強化



変革

事業基盤の変革

中国拠点間にて、開発部門と技術部門の連携強化。東莞では自動化設備導入により生産性・コスト効率が改善。各拠点にて、収益力強化を実現しています。

## トレセラビリティシステム



収益

コア技術・コア製品の強化

インド拠点であるTBK India Private Ltd.は、トレセラビリティシステムの改善を実施し、品質管理の徹底を図り、お客さまからの信頼を得ております。



インド工場のトレセラビリティシステム

## DXの推進



収益

コア技術・コア製品の強化

IoTを活用した工場実績のリアルタイム収集を通じてDXを推進し、生産性向上及びコスト競争力の強化に取り組んでおります。

実績収集(POP) 人日報 棚卸 納品受付



実績収集(POP)・棚卸・人日報・納品受付

## 本部制度の導入



変革

事業基盤の変革

2025年4月から「本部制度」を導入しました。持続可能な経営戦略の策定と実現に向けて、責任権限の明確化と様々な事象に対し、迅速に取り組んでおります。

## タイにおけるソーラーパネルの設置工事完了（第3期）



タイ拠点にあるTBKK(Thailand) Co.,Ltd.は、GHG排出量削減の取り組みとして、PPA（電力購入契約）を活用した太陽光発電システムの第3期設置工事が2025年10月に完了しました。



TBKKの太陽光発電システム

## 本社地区の製造業初「ホワイト物流」推進運動に参画



「ホワイト物流」推進運動に参画しました。  
サプライチェーン全体の持続可能性の観点で、輸送効率化やドライバーの負担軽減、CO<sub>2</sub>削減に取り組んでおります。

## 社員参加型ワークショップを通じて価値観を浸透



TBKグループでは、「TBK WAY」の価値観浸透を目的に社員参加型ワークショップを実施しました。（順次グローバル展開中）



TBKグループの役員・従業員が共通して持つべき価値観  
TBK WAY完成

当社は、2025年11月21日付の取締役会において、Brakes India Private Limited（以下BIPLといいます。）との間で資本業務提携契約を締結し、資本業務提携を行うこと及びBIPLを割当予定先とする第三者割当による新株式の発行を行うことについて決議いたしました。



X

## Brakes India

### 資本業務提携の狙い

- ブレーキ製品の品揃えの拡大・強化  
(最新技術を活用したブレーキをインド市場へ展開)
- コスト競争力強化 (安価な材料調達、製造コスト低減)
- システムサプライヤーへの挑戦



BIPL社との契約締結

## システムサプライヤーへの挑戦

電動化・自動化製品を含むシステム  
サプライヤとしての地位獲得

高付加価値事業の提案

両社は技術力と顧客基盤を相互に補完し合い  
共に高付加価値を創出します

## 当社と提携会社の課題

### [TBKの課題]

- 付加価値向上を支えるシステム開発力
- 製品ラインナップの多様化を強化したい



Brakes India

### [BIPLの課題]

- 電動化製品の展開を強化したい

社名	Brakes India Private Limited(BIPL)
設立	1962年11月9日
本社所在地	No. 21, Patullos Road, Chennai, Tamil Nadu, 600 002, India
資本金	1億7464万2400ルピー
従業員数	10,925名
事業内容	自動車用ブレーキ及び自動車用鋳造品の製造及び販売



BIPL社

## 本資料ご説明にあたっての注意事項

- ・ 本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。
- ・ 実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。